

## 平成 28 年度 第 2 回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

平成 28 年 6 月 27 日（月）18:30～20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者	9 名…柏崎、岩堀、神津、西條、島田、妻沼、永野、吉田、高橋
欠席者	2 名…井上、澤田
事務局	2 名…市民生活課 山中、安陪
指定管理者	1 名…NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 高橋
傍聴者	0 名

- 配布資料
- 1 横須賀市総合福祉会館・産業交流プラザ・勤労福祉会館・市民活動サポートセンター・デュオよこすか配置適正化実施計画（素案）
  - 2 公共施設の集約・移転に関するアンケート調査結果について
  - 3 横須賀市施設配置適正化計画における考え方

### 1 議題

#### **市民活動サポートセンター含む公共施設の配置適正化実施計画（素案）について**

市民生活課から、資料 1、2 及び別冊に沿って「実施計画素案」について説明した。

（市民生活課）

- ・この実施計画素案は、6 月 15 日開催の市議会生活環境常任委員会にて配布したもの。
  - ・横須賀市の今後の人口減少予測から、それに伴う各施設利用者の減少が予想される。
  - ・歳入は市税が減少、歳出は高齢化による社会保障費が今後さらに増加していく予測。
  - ・また、公共施設の老朽化に伴い、更新費用に多額の費用が必要。
  - ・これらの将来人口や財政状況を勘案して、施設の適正な配置を実現する取組みが必要となる。
- 
- ・平成 26 年度に策定した「横須賀市施設配置適正化計画」を、地域別や施設の目的別などにより複数のグループに分けたものが分野別計画であり、「横須賀市総合福祉会館・産業交流プラザ・勤労福祉会館・市民活動サポートセンター・デュオよこすか配置適正化実施計画（素案）」も、そのなかのひとつ。
  - ・対象は、計画の名称となっている 5 施設。
  - ・各施設利用者及び無作為抽出による市民に対してアンケートを実施し、素案に反映させている。
  - ・見直しの方向性として、（1）貸室利用率の低迷による横須賀中央・汐入地区の貸室機能の集約、（2）市民活動サポートセンター、デュオよこすかの移転による空きスペースの活用、を検討している。
- 
- ・本日の懇話会での意見聴取のほか、9 月頃には市民向け説明会の開催も予定している。
  - ・現段階の計画はあくまで素案であり既定事項ではない。率直なご意見をうかがいたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

### ①課題抽出・アンケート結果の反映について

- ・利用率が減少しはじめた時期の分析や原因追及はできているのか。また、市として対策をとってきたか。統廃合は重要であるが、利用者の立場で検討すべき。例えば、貸室の利用料金については、利用者からの意見を精査する必要があると思うが。  
→利用者が横須賀中央・汐入地区以外に行く必要がないよう検討している。説明会などを通して、さまざまな視点からの利用者意見を聴取したい。
- ・一般市民は圧倒的に施設を利用していない人が多い。利用者とそうでない人では意見に差が出るだろう。意見を発するのは利用者であり、利用していない人にとっては無駄だという判断になると思う。  
→アンケート結果にも大きく差が出ている。施設利用者は6割が現状維持を希望、利用していない人は7割が市の計画に概ね賛成と回答。9月頃実施予定の説明会は、計画の対象施設にて開催し、できるだけ利用者の意見を拾い上げたい。
- ・利用していない人は、できるだけ集約してやめるべきという意見になると思うが、利用者としては現状維持してほしい。今あるものをそのままに、どう様式を変えて市と市民が工夫してやっていくか、という発想もあるだろう。
- ・利用者からすると、調査が甘すぎると感じる。無作為と利用者の意見はまったくちがう。施設を利用していない人の視点や、今がよければよいという将来を見据えていない若い人の視点で移転させてよいものか。30年後、40年後の横須賀を見据えて検討していくべきでは。どんどん市が集約の方向に進んでしまっているように感じる。
- ・高齢者向け施設を減らして若者向け施設を増やそう、というような意見もあるが、人口減少対策にはならないと思う。
- ・市議会には、こういった市民意見を理解して進めていってもらえると思っている。  
→市議会へは平成28年第2回定例会で、関係課の所管する委員会へ当該素案について報告した。さまざまな意見をいただいたが、施設配置適正化計画という大きな計画を具体化していくうえで、分野別計画に絞って意見を聴取する方法として、まずアンケートを実施し、素案に反映させた。今後見直しが必要となるかもしれないが、そのためには運営懇話会のメンバーをはじめ、利用者のみならずご意見をうかがっていく必要がある。

### ②移転・集約案について

- ・サポートセンターにとって現在の場所以上に便利な場所はないと思うが、総合福祉会館と利用者層が類似している。両施設を利用している方も多いため、駅からは離れるが、サポートセンターが総合福祉会館へ移転したほうが利便性向上につながるのでは。  
また、産業交流プラザはヴェルクよこすかと利用者層が近いため、機能をヴェルクよこすかに集約し、産業系でまとめてはどうか。  
→アンケートでも他の集約方法があるのでは、という意見があった。  
本来、総合福祉会館と産業交流プラザは同じ貸室でも対象が異なる。設置目的が異なるため、利用率が高ければ集約の必要はないが、低迷しているのであれば同じ機能を集約して空いたスペースを有効活用できるのでは、という視点での計画である。

- ・産業交流プラザの機能すべてを総合福祉会館に移転させるわけではないのか。節約ということであれば、貸室機能以外も含めて移転したほうがよいと思うが。
  - 産業振興財団と創業支援オフィスは現状維持の予定。この計画で解消しようとしている大きな課題の一つに、貸室利用率の低迷があるため、それに基づくもの。
- ・産業振興財団は産業交流プラザの貸室を利用する営利団体との連携も図っているため、貸室の機能を分離してしまっても効果が薄れるのでは。産業振興財団が産業交流プラザ内になくてもよいものであれば、なおさら貸室と分離しないほうが機能としてはよいと思う。
- ・サポートセンターはそもそも貸室ではない。産業交流プラザが空いたからそこに入れるという発想はパズルのような印象を受ける。それぞれの貸室に目的があるのだから、サポートセンターは現状維持し、産業交流プラザを産業振興財団なども含めて移転させるほうが理屈に合っていると感じる。サポートセンターは他の施設の影響を受けてしまっているように思えるが。
  - 貸室という視点でみると、確かにサポートセンターは影響を受けた側と思われても仕方ない。市全体としては、サポートセンターの移転により、跡地を他のことに活用できるというメリットがある。サポートセンターにとっても意義のある移転にしたいと思っている。
  - 例えば、他の自治体では、有料ではあるがサポートセンター内に会議室を設置しているところもあるので、そういった機能を設けるなど、市民のみなさんのご意見をうかがい素案に反映させていきたい。
- ・総合福祉会館とデュオよこすかの機能を現サポートセンター施設の一部に入れることは検討されていないのか。
  - 産業交流プラザを移転先とした場合、現在のサポートセンターの2倍以上の面積を確保できる計画となっている。現在の敷地内に他施設の機能を集約して利用者に窮屈を強いるよりも、広いスペースを活用したほうがよい、と考えている。
- ・1階よりも3階の面積が広いのであれば、3階を民間企業に貸したほうがよいのでは。
  - そのような案も考えられる。市の提案する計画が必ずしもベストであるとは言い切れない。
- ・市民も、よくわからない、と言ってきちんと意見を出さないのはよくないが、大きな規模の話になると意見の出し方が難しい。だからといって、やたらに移転しては無駄が出るように感じる。現状を維持したまま、まだできるのでは。
  - 集約した部分の効果だけでなく、現在の素案をもとに施設の集約・統合を図った場合に空くことになる現サポートセンター部分の活用方法は、もう少し具体化すべきと考えている。
- ・統廃合によってどれだけ市の財政がよくなるか。総合福祉会館などは黒字にするのは難しいか。
  - 市民のみなさんの税金を使って運営しているため、施設利用料をそのまま施設で働いている人の人件費に充てているわけではない。なにをもって赤字・黒字というか施設単位での判断は難しい。

### ③貸室機能について

- ・産業交流プラザは10人以下の少人数で利用するのにちょうどよい広さの貸室があるが、総合福祉会館は定員が20~30人規模の広い貸室が多く、少人数で利用するには使い勝手がよくない。少人数でも大人数でも利用可能なバランスのよい貸室の配置をしてほしい。
- ・適正な人数が適正な大きさの部屋を利用しているのか、実際の状況を知りたい。少人数で必要以上に大きな部屋を使用することは無駄だと感じる。

- ・障がい者が総合福祉会館を利用する場合、優先的に貸室の予約をすることができ、また使用料も減免される。市の取り組みで配慮されているが、施設の移転・集約という問題が出てくるということを考えると、これまで障がい者である自分が優遇されすぎていたのではと反省する。
- ・貸室全体でみると利用率が低いのかかもしれないが、音楽室や運動のできるホールなどは予約がとれず困っている。30～40人規模の貸室利用が少ないのであれば、そういった部屋を利用率の高い音楽室に改修したり、運動できるホールを増やすといったお金の使い方をしてはどうか。  
また、団体の会員数を増やしたくても施設によっては音楽室がせまく、大人数での活動が制限されるといったこともある。  
→特定の用途のための貸室についてはアンケートでもご意見をいただいている。市議会からも、貸室全体の利用率は示しているが、部屋ごとの利用率が示されていないという指摘があった。市民向け説明会には資料を提示する予定だが、集約した場合に、例えば音楽室の利用率が100%を超えるようなことであれば、特定の用途の貸室を増設するという選択肢も考えられる。
- ・利用料を払ってでも利用したいという人も多くいる。他の自治体をみていると施設利用が無料という自治体は少ないのでは。有料にすることで変な使い方をする人も減り、利用率も上がると思う。
- ・ヴェルクよこすかなどは場所を知らない人も多い。現状のまま広報等を工夫し、あわせてコミュニティセンターを有料にすれば移転対象施設との格差も減るのでは。  
→コミュニティセンター有料化については、従前から市のなかでも検討されているが、今回の移転計画と同時の変更は難しい。
- ・予約なしでも行ったときにすぐ借りられることが理想。無料施設で利用率100%では貸室を借りる側からするとハードルが高い。市民の利用しやすい適正化とはなにか、を考えた適正化を図ってほしい。

#### ④サポートセンターの移転について

- ・サポートセンター利用者は、高齢者が多い。3階に移転することで不便が生じるのでは、  
→高齢者や障がい者への配慮についてはアンケートでも意見をいただいている。エレベーターやエスカレーターなどの手段があるが、施設が1階にあることには敵わない。  
既存の建物にエレベーターを増築するなどの大規模な改修することは難しいが、アナウンスを工夫するなど対策を検討したい。
- ・今後の議論ではあるが、のたろんフェアは実施できるか。やめるということならば仕方ないが、これまで築いてきたものをまったくなしにしてしまうのはどうか。産業交流プラザ跡地の改修にあたっては、イベント対応ができるかなど検討してほしい。  
→2日間で数千人を集客するイベントであり、市としても継続できるようにしたい。現在とまったく同じ形式での開催は難しいと思うが、できるだけ現在の形を損なわずに開催できるようにしたい。
- ・他の自治体のサポートセンターは建物の2階以上にある場合が多く、1階にある横須賀は恵まれている。贅沢ではあるが、近隣の他市町の住民も横須賀のサポートセンターを利用していることもあるので、1階を維持してほしい。
- ・サポートセンターの場所をむやみに民間企業に売却することは避けてほしい。
- ・サポートセンターの移転には反対。

### ⑤移転そのものではないが付随する内容について

- ・総合福祉会館にはさまざまな施設が配置されているため、「総合福祉会館」と一括りの呼称では誤解を招く。どのような施設が入っているか、知らない市民は多いと思う。
- ・総合福祉会館のなかに点字図書館があるが、よく点字ブロックを外れて歩いている方を見かける。建物のリフォームを行うならばそういった部分を見直してほしい。
- ・デュオよこすかが総合福祉会館内にあることや、何をやる施設か知らない市民が多いのでは。男女共同参画の視点は重要だと思うが、「参画」の意味を知らない人も多い。
- ・もし移転がこのまま進むのであれば、デュオよこすかの図書館機能のよい部分を活かし、サポートセンターの本や図書館の本も貸出しできるようにするなど、各施設のメリットも集約してほしい。

### ⑥その他

- ・青少年会館は施設配置適正化計画の対象外か。  
→児童図書館を新たに建設した場合はそちらに統合としているが、建設が困難な状況。そのため青少年会館は現状のままの可能性が高い。
- ・文化会館はどうか。  
→はまゆう会館が廃止となり、文化会館に集約の計画。文化会館は残る予定。
- ・中央図書館はどうか。  
→移転を検討しているが、施設配置適正化計画は平成 64 年までの長期的な計画であり、現状で動きはない。  
施設配置適正化計画はある程度可能性として謳っており、検討部会ごとに検討している。

(市民生活課)

- ・今後実施予定の市民向け説明会については、広報・チラシなどで周知していく。運営懇話会メンバーに対しては個別に案内する考え。

### **連絡事項**

(市民生活課)

- ・次回、通常開催の運営懇話会は平成 28 年 8 月 17 日 (水) 18 : 30～サポートセンターにて開催予定。

以上